

自立した御船町へ 地域主権を考える

マニフェストの進捗よく状況を「町民へ報告する第4回御船町マニフェストまちづくり大会」が2月14日、カルチャーセンターで開かれ、町内外から約3000人が傾聴しました。ここでは、地域主権をテーマとしたパネルディスカッションと、増田寛也元総務大臣の講演を整理してお伝えします。



町民代表
下野 正 氏



町民代表
柴田 恒美 氏



町民代表
福島 賢人 氏



御船町議会議長
田中 隆敏 氏



御船町長
山本 孝二 氏



コーディネーター
神吉 信之 氏



スペシャルゲスト
増田 寛也 氏

神吉 マニフェストが御船町に入ってきて、もうすぐ4年目。マニフェストが入ってきてどういう変化があったのか、あるいは課題を話していただきたいと思います。

下野 昨年11月30日、山本町長に対して、学校給食問題検討委員会の報告書を提出しました。山本町長のマニフェストは行政運営の要であって、町民に対する情報の発信で、あらゆる機会を利用し、情報公開、あるいは周知する必要があります。必要があると思います。（現在）行政をまきこんだところで食育計画も策定されつつありますが、行政、地域、家庭との連携がこれからの食育には非常に大事です。学校給食問題検討委員会の活動を通じて、マニフェストの中の一つとして活動できたことは、一人の町民としてマニフェストを知ることができました。山本町長がマニフェストを掲

げて行政をやっていかれる以上、町民自らがしっかりと見定めていく、関心を持つことが非常に大事になってきている感じを受けました。

柴田 マニフェストの意見交換会や検証大会に参加して、マニフェスト型で山本町長が進めていかれることが少しですが実感できました。同時に検証大会の時には、町の情報などがいろいろと分かった部分もあります。しかし、気になったことは、（意見交換会などの）参加者がいつも同じような顔ぶれだったことです。これからはもっと、御船町が子育てしやすい町になるために、住民として、どんなことができるのか、今やっている事業や活動の中でさらに気づきを深めていきたいと思います。

福島 私たち若い世代は、町政やマニフェストに関心がない人、関心があっても関わ

神吉 どのように御船町の活動や取り組みを評価しますか。

増田 マニフェストでは、行政の優先度をつけていくことが大事です。今はやりたいことが山ほどあります。どういう順番で、どういうやり方で解決していくのか、そこに町民の意見の違い、それぞれの思いがあります。それを最大限どこかで一つの方向性を決めなければいけません。限りある財源、人的資源、地域資源、さまざまなボランティア活動も含めて、最終的に町長が判断したものができま

れない人たちは多いのではないかと思います。私もそうでした。けれどもマニフェスト検証大会で、検証委員や学校給食問題検討委員などに関わっていく中で、若い世代も意見をどんどん出していくことは重要だと気づかされたことが大きな一歩でした。今後、多数の若い人たちのまちづくりへの参画が最重要課題だと思います。マニフェストという新しいまちづくりの形態ができたことで、私たち若い世代も積極的に参加できる形になりました。（これから）どんどんまちづくりに参加していきたいと思っています。

田中 議会はどのような町政運営であっても、議会の本来の機能はチェック機能（の役割）を果たすべきです。マニフェストの部分でも、議会

のきつかけの場になると思います。このような検証をする新たな議論の場を定期的に行っているところ（の自治体）は非常に少なく、御船町の取り組みは先進的な意味があり意識が高いと思います。

神吉 地域主権のキーワードを含めて、みなさんにメッセージをお願いします。

増田 町の議会が何をするのが大事であって、通年（議会）にして、そこで議論すべきことはどしどし議会でやらせていいと思います。できるだけ議案というのは条例化したり、決議したり、形にして、議会としては町民へ常にフィードバックするという、その繰り返しで議会の存在を町民に理解してもらう大きなきっかけになると思います。そういう議会活動を通じて、一人ひとりの議員が選挙で選

マニフェストは政策実行に最大の効果

ますだ・ひろや
東京大学法学部卒。建設省(現国土交通省)などを経て、平成7年に岩手県知事就任。平成19年に総務大臣就任。現在、(株)野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授を勤める。東京都出身。59歳

マニフェストや分権も一つの手段、道具であって、いかに住みよい町になっていくのか、その知恵が今（地域に）求められています。分権自治の背景で、マニフェストは日本で2003（平成15）年から大きな（政策）武器として登場しました。私が最初にマニフェストを作った訳ですが、マニフェストは（選挙）当選後の政策実行に最大の効果があります。それだけに（マニフェストの）作成過程には一番時間をついやして丹念につくらないと意味がありません。（マニフェストとは）①作成過程②政策実行③評価―が必須で一体となるものです。これをこれからより良いものにしていく努力が求められます。（そして、）今ある制度の中で、どういう風に切り替え、どう選んでいくのが行政の姿です。民主主義では、より適当な方向を探しながら進み、段階を追って築きあげていかなくはなりません。その階段をきちんと進むことによって、足元が強固になります。一步一步地域を固めたうえで前に進んでいくことが正解だと思います。

神吉 キーワードは、地域の中にみなさんができることを考えて、一歩でも前に進んでいくことではないでしょうか。（本文中敬称略）

になると思います。今、御船町議会がつくっている御船町議会基本条例では、議会が町民に示すマニフェスト（約束）で、議会活動を町民に約束をすることでの制定を目指しています。行政のマニフェスト、議会のマニフェスト、それが二つ御船町に誕生すると思います。基本的には御船町の議員が意識を変えて、やるぞという意識になってきたことが、今回の御船町の議会基本条例制定へと向かっています。町民も御船町議会をしっかり見ていただきたいと思っています。

山本 町執行部、議会、町民の3者のバランスが、町長になりたてのころは、いびつ

ばれているわけで地域の代表者です。立場は町長と全く変わらないわけです。議員の力を通じて、地域の難しい問題を解決する、そういう代表者としての役割を果たしていくと地域がどんどん変わっていきます。議会で御船町のあり方をいろいろと模索しながら、変えていけばいいと思います。地方自治の最終的なキーワードは、住民参画といわれています。住民参画機会の拡大で、役場はその機会を拡大できるようなチャンスを広げて、後は住民が半歩でも一歩でも前に進むかどうかによって、住みやすい御船町になっていく気がします。

神吉 キーワードは、地域の中にみなさんができることを考えて、一歩でも前に進んでいくことではないでしょうか。（本文中敬称略）